



各 位

平成 21 年 10 月 14 日

会 社 名 八 洲 電 機 株 式 会 社

代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 落 合 憲

(コード : 3153 東証第 2 部)

問 合 せ 先 取 締 役 経 営 統 括 本 部 長 守 屋 昇

(TEL 03-3507-3349)

第 2 四 半 期 業 績 予 想 の 修 正 に 関 す る お 知 ら せ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 21 年 6 月 25 日の東証上場時に「平成 21 年 3 月期決算短信」にて開示した平成 22 年 3 月期第 2 四半期累計期間（平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日）の業績予想を修正することといたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

(1) 平成 22 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の連結業績予想数値の修正(平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四 半 期 純 利 益	1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A)	百万円 53,796	百万円 509	百万円 581	百万円 298	円 銭 16.22
今 回 修 正 予 想 (B)	47,803	152	198	128	6.97
増 減 額 (B - A)	△5,993	△357	△383	△170	—
増 減 率 (%)	△11.1%	△70.1%	△65.8%	△57.0%	—
(参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 21 年 3 月期第 2 四半期)	62,051	846	927	532	29.51

(2) 平成 22 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の個別業績予想数値の修正(平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四 半 期 純 利 益	1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A)	百万円 48,510	百万円 224	百万円 419	百万円 260	円 銭 14.15
今 回 修 正 予 想 (B)	43,231	7	184	171	9.31
増 減 額 (B - A)	△5,279	△216	△235	△89	—
増 減 率 (%)	△10.9%	△96.9%	△56.1%	△34.1%	—
(参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 21 年 3 月期第 2 四半期)	—	—	—	—	—

2. 修正の理由

当社グループを取り巻く経済環境は、依然として設備投資の抑制傾向が続いており厳しい状況にあります。

このような市場環境において、当社グループは積極的な営業活動の推進に努めてまいりましたが、以下のような影響を受けております。

①システム・ソリューション事業

(生産システム)

鉄鋼分野については、設備投資の計画の見直しや実施時期の延期などもありましたが、CO₂削減・省エネなど環境関連や省人化、生産効率化を図るための老朽化更新需要により鉄鋼システム製品は、ほぼ予定通りに推移しております。

一方で、化学、製紙、精密、機械分野では、省エネや生産性効率化の設備投資に幅広く対応したものの、特高変電設備、低温冷熱設備、環境試験装置などの生産設備機器においては、設備投資の延期および生産調整による影響を受け、当初予定を大幅に下回ると見込んでおります。

(社会インフラシステム)

運輸分野では、環境問題を背景に鉄道の利用が見直され新造車両、車両制御装置、車両電気品、変電所設備など鉄道関連システムが堅調で予定を上回る見込みであります。

流通・サービス分野では店舗の設備更新、照明の一斉交換などの投資は引き続き実施され、ほぼ予定通りに推移すると見込んでおります。

空調・サービス分野では設備投資の抑制、建築着工の低迷に加え天候不順に伴う空調需要の落ち込みによる影響を受け、当初予定を下回ると見込んでおります。

(情報システム)

セキュリティシステムや情報制御システムについて、設備投資の見直しによる計画の延期が影響を受け、当初予定を大幅に下回ると見込んでおります。

以上の結果、システム・ソリューション事業は第1四半期までは、鉄鋼システム、鉄道関連システムが堅調に推移し、設備投資の延期や生産調整による生産設備機器、産業機器製品等の落ち込み分をカバーすることができ、予定を上回りました。第2四半期では引き続き、鉄鋼システム、鉄道関連システムは堅調に推移すると予想しておりますが、生産設備機器、産業機器製品等の落ち込み分まではカバーできないと予想されます。

②電子デバイス・コンポーネント事業

アミューズメント分野では、ゲームソフト用半導体メモリおよび表示パネル用液晶ディスプレイは、ほぼ予定通りに推移すると見込んでおります。

しかしながら、半導体市場は、在庫調整は進展したものの依然として厳しい状況が続いており、産業分野向け半導体は設備投資抑制に伴う製造装置等の生産調整の影響があり、また、通信分野では、携帯電話の生産が減少し、世界的価格競争による価格の下落基調の影響を受け、当初予定を大幅に下回る見込みであります。

このような結果、第2四半期連結累計期間の連結業績につきましては、売上高は478億300万円（前回予想比11.1%減）、利益面においては、積極的な粗利の確保および経費の圧縮に努めているものの、売上高の減少はカバーできず、営業利益は1億5200万円（同70.1%減）、経常利益は1億9800万円（同65.8%減）、四半期純利益1億2800万円（同57.0%減）を見込んでおります。

また、個別業績につきましては、売上高は432億31百万円（前回予想比10.9%減）、営業利益は7百万円（同96.9%減）、経常利益は1億84百万円（同56.1%減）、四半期純利益1億71百万円（同34.1%減）を見込んでおります。

なお、平成22年3月期通期の業績予想につきましては、現在算定中であり、平成22年3月期第2四半期決算発表時（平成21年10月30日予定）に改めてお知らせいたします。

（注）上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成しております。実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上